

科目名	アントレプレナーシップ論 Entrepreneurship		選択	2 単位
学期・曜日・時限	春・月・4 限	春・月・6 限	-	-
担当教員名	岸田 伸幸	e-mail		
<p>&lt;講義の概要と目的&gt;</p> <p>ベンチャー企業、社内起業家、企業家的経営者を対象に、アントレプレナーシップを学ぶ。事例研究や技法解説を通じて、起業前後に遭遇するだろう諸問題の理解と、対処の指針や方法を学ぶ。起業人材に求められる資質を、論理的に理解し、自らの資質と課題とを認識する。ベンチャー経営のベストプラクティスを体系的に把握する。事業計画の作成に向けた事業構想の意義と方法論を習得する。</p>				
<p>&lt;講義計画&gt;</p> <p><b>第1週：「アントレプレナーシップ」とは</b> 本講座の進め方について説明する。起業家の現代的使命と時代認識を共有する。アントレプレナーシップ及びベンチャーの定義を論じ、ベンチャーと在来産業という視点で整理する。</p> <p><b>第2週：起業家資本主義の勃興</b> 米国発のベンチャー経済の勃興から説き起こし、今世紀に至る日本の起業家資本主義の展開をみる。各種起業家の事例を軸に辿ることを通じ、事業機会を探索する「鳥の眼、虫の目」を磨く。</p> <p><b>第3週：起業家エコシステムの形成</b> 起業家活動の社会的基盤となるエコシステムについて学ぶ。理論的側面と内外の形成過程とを知り、日本に於ける現状と展望を、起業実践の立場から理解する。グループ編成と課題の提示。</p> <p><b>第4週：事業構想の理論</b> ベンチャー企業と起業家の役割。産業組織内における存在意義。新事業アイデアの探索とアイデアワーク技法を知る。会社設立前の課題と解決策。ビジネスプラン概論。(教科書 第1章、第2章)</p> <p><b>第5週：起業競争力の源泉</b> 知的財産権とベンチャー戦略を学び、大学発ベンチャー、大企業発ベンチャー、ハイテクスタートアップを論ずる。また、公的高等研究機関・地方技術試験場等の役割を考える。(教科書 第7章)</p> <p><b>第6週：大学発技術移転事業創造事例研究[ゲスト講義]</b> 有力大学技術移転支援関係実務家をゲスト講師に招き、大学発技術移転による事業創造の事例研究を行う。クラス討議を通じ、高度技術移転に基づく事業創造と同支援機関について理解を深める。</p> <p><b>第7週：ベンチャー成長の理論1：スタートアップ段階</b> ベンチャー成長サイクル理論。スタートアップ期の経営課題と対処方法について学ぶ。ベンチャーマーケティングおよびブランド戦略。キャッシュフロー予測とJカーブ効果。(教科書 第3章)</p> <p><b>第8週：ベンチャー成長の理論2：成長段階</b> リスク成長期の経営課題と対応策を学ぶ。ベンチャー企業の発展段階と対応戦略。ベンチャー起業の成功確率。急成長期ベンチャー経営のケーススタディ。(教科書 第4章)</p> <p><b>第9週：起業家の資質と経営チーム</b> 起業家に求められる資質と特徴。会社理念の重要性。経営チーム組成に関する留意点。起業チームのケーススタディ。マネジメントの交代/事業承継。(教科書 第5章)</p>				

#### 第10週：ベンチャー人材マネジメント

成長段階に応じたベンチャー人材戦略。人事マネジメントシステム（報酬体系・人事考課・教育訓練）の構築。教材資料に基づくクラス討議。（教科書 第6章）

#### 第11週：社内起業家と企業革新

産業構造の変化と社内ベンチャーによる経営革新を論ずる。大企業のコーポレートベンチャリングおよび伝統産業のイノベーション（第二創業）について、ミニケースから学ぶ。

#### 第12週：ベンチャーファイナンス1

ベンチャー企業の資金ニーズとその変化。創業資金の確保。金融機関の利用。ベンチャーキャピタルの概要と活用戦略。クラウドファンディングについて。（教科書 第8～9章）

#### 第13週：ベンチャーファイナンス2

ステークホルダー／出資者等との協創関係。株式上場のメリットとデメリット。企業価値評価方法と評価事例研究。資本政策の理論とケーススタディ。（教科書 第10～11章）

#### 第14週：起業家活動の現在と支援策[ゲスト講義]

起業／ベンチャーの第一線で御活躍中の実務家をゲストに招き、近年の起業家活動や支援政策の動向を伺う。起業を志す人材に求められる資質や知識、キャリアおよび準備についてもお話し頂く。

#### 第15週：グループワーク発表会

グループワークの成果を発表し、クラス討議を行う。

#### <講義の進め方>

教科書、参考書に沿って講義を行う。また、履修者を各数名のグループに編成して報告発表を課し、クラス討議を行う。題材は事例や雑誌記事、教科書・参考書の章課題等から事前に指示する。

#### <準備学習内容>

各授業で扱う教科書と参考書の該当部分、並びに事前配布資料がある場合はそれを精読すること。小課題がある場合は期限までに答案を作成して提出すること。詳細は講義時に指示する。

#### <教科書及び教材>

下記教科書ほか随時所要の教材・参考資料を、プリント、電子ファイル等で配布する。  
長谷川博和『ベンチャーマネジメント[事業創造]入門』日本経済新聞出版社（2010）

#### <参考書>

E・リース『リーン・スタートアップ』日経BP社（2012）  
P・F・ドラッカー『イノベーションと企業家精神』ダイヤモンド社（2007）  
R・マグレイス／I・マクミラン『アントレプレナーの戦略思考技術』ダイヤモンド社（2002）  
大前健一ほか『決定版！「ベンチャー起業」実戦教本』プレジデント社（2006）  
加来耕三『日本を再興した起業家物語』日本経済新聞社（2012）  
木谷哲夫『ケースで学ぶ実戦企業塾』日本経済新聞社（2010）  
清成忠男『事業構想力の研究』宣伝会議（2013）  
勿那憲治ほか『アントレプレナーシップ入門』有斐閣（2013）  
長谷川博和『ベンチャー経営論』東洋経済新報社（2018）  
星野達也『オープン・イノベーションの教科書』ダイヤモンド社（2015）  
前田昇／安部忠彦編『ベンチャーと技術経営』丸善（2005）

<成績評価方法>

小課題・クラス貢献 30%、中間レポート 20%、グループ発表 25%、期末レポート 25%の割合で評価する。欠席 6 回以上は成績評価しない。

<履修条件> 特になし。

<DVD による視聴> 可

<オフィスアワー> 月曜 4 限～5 限

<その他>

グループ発表への積極的参加とクラス討議のために、Web での情報収集など事前準備を推奨する。  
ゲスト講師の都合で日程変更することがある。